



新潟教育会報

公益財団法人 新潟教育会

(新潟教育会館内)

第103号

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町590番地3号

令和6年2月22日発行

TEL・FAX:025-222-2971

E-mail: jimukyouikukai.jp



心をしなやかに!!～研修を通し「聴く力」を高める～



理事
大橋 伸夫

「頭と心の柔軟性を保ち続けて」

全国的に教師不足が大きな課題となっている中、新潟県・新潟市から、令和7年度の小学校教諭の採用選考検査において、早期化・複数回実施に加え、大学3年時での受検も可能にするという変更が発表された。中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会の中間まと

めでも示されている内容である。この変更が学校現場の教師不足の解消や、高い志をもった人材の確保につながってくれることを願っている。また、養成する大学等において、学生のために適切な対応がなされることを願っている。

退職後、これからの人生を豊かに送るためにも、自分自身の身体ともう一度向き合おうとチャレンジをしている中で、様々な関節や筋肉が凝り固まっていることを痛感した。同じ姿勢を繰り返したり、身体を動かす機会が減っていたりしたことが原因なのは明らかである。動画等を参考に体の様々な部分をほぐしていくと、関節の可動域が広がったり、身体を動かすことが楽になったりすることを実感することができた。そんな中、考えたことは、「頭や心は大丈夫か」ということである。頭や心も凝り固まっていたら、思考の柔軟性も期待できないし、人とのかかわりにおいてもゆとりをもった対応ができなくなってしまう。豊かに生きていくためには、身体の柔軟性や可動域を保つ以上に、頭や心の柔軟性を保つことは重要なことである。そのためにも、日々、頭や心を意図的に使い続けなければならない。若い人は大丈夫かなと余計な心配をしつつ、まだまだこれからというつもりで、毎日、様々な刺激を求め、様々な経験を楽しみ、頭と心の柔軟性を保ち続けていきたい。そして、教職を志した者として、教職を離れても、変化を前向きに捉え生涯学び続ける人であり続けたい。

令和5年度特別支援教育

助成校だより

助成校

- 糸魚川市立能生小学校
- 小千谷市立千田小学校
- 佐渡市立羽茂小学校
- 新潟市立横越小学校
- 見附市立今町中学校
- 新潟市立小針中学校

「かかわりながら自立を促す特別支援教育」 を目指して

糸魚川市立能生小学校
松岡 貴徳

当校には、知的障がい学級が2学級、自閉症・情緒障がい学級が2学級あります。また、通級指導教室は、発達通級指導教室が1教室、言語通級指導教室が1教室があります。児童一人ひとりの「分かる」過程を大切に学習支援と、協働的な問題解決の過程を重視した生活支援を柱に、特別支援教育を推進しています。

当校では、「個別の指導計画」を基に、他者とかかわりながら自立していく姿を目指し、特別支援教育チームで指導・支援に当たっています。夏野菜を育ててピザを作ったり、電車に乗って上越へ出かけたりなど、計画から実行、振り返りまで、たくさんの方々との協働的にかかわる経験は欠かせません。また、中学校区の他の小学校の特別支援学級と一緒に校外学習に出かけ交流を深めた活動も、児童の自立につながりました。今後も、特別支援教育の充実を目指し、多様なかかわりを模索しながら取組を工夫していきます。



相談しながら「おやつ」を選ぶ

関わり合いながら成長を促す 「ひまわりタイム」の取り組み

小千谷市立千田小学校
樋熊 奈美江

当校には、知的障害学級が2学級、情緒障害学級が1学級、発達障害通級指導教室があります。特別支援3学級19名の児童が合同で「ひまわりタイム」を行っています。今年度は、運動の時間、お楽しみ会などの集会活動、野菜の栽培活動や調理などを行いました。

この活動では、生活単元学習のねらいにある自立的な生活に必要な事柄を実際・総合的に学習することを重視しています。また同時に、特別支援学級在籍児童の中で、リーダーとフォロワーの経験をさせるということも目指しています。同年齢児童の交流学級では助けられる側に回ることが多い児童も、この活動ではリーダーになって、気を配り他の児童を引っ張ります。下学年の児童は、自分の役割が活動を動かしリーダーを助けるために大切であることを学びます。春からの活動により、児童間の仲間意識が増し、助け合う姿と笑顔が増えました。



みんなの「ひまわり畑」
看板づくり

チームで取り組む特別支援教育

佐渡市立羽茂小学校
小池 貴弘

当校には、知的障害学級が1学級、自閉症・情緒障害学級が1学級、言語通級指導教室が1教室あります。児童一人一人の教育的ニーズに合わせた効果的な指導を心掛け、教職員間の連携を大切にしながら特別支援教育に取り組んでいます。

当校は、採用2校目までの若手教員が多いので、経験豊富な3人の特別支援学級担任が、若手教員の相談に乗ったり、助言をしたりしながら、通常学級と特別支援学級との連携を図っています。また、通級指導教室があるメリットを最大限に生かし、通級指導担当者が個別やグループでの取り出し指導を行ったり、保護者との教育相談に同席したりしています。

特別支援教育の重要性が高まっていく中、学校全体でチームとして取り組んでいくことで、教職員の力量の向上を目指すとともに、全ての児童に目を向けた全校体制での特別支援教育を推進できるよう、今後も努めてまいります。



算数の学習に
取り組む児童



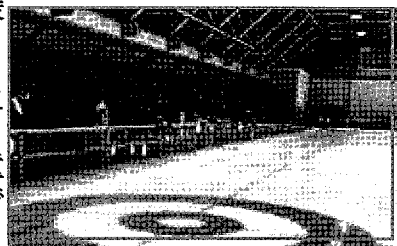
「特別支援教育助成」は、新潟教育会が設立以来行っている事業です。選考委員会で選出された6か校が今年度の助成校となり、令和5年11月10日（金）に表彰式を行い、助成校に表彰状と助成金を贈呈しました。助成校の優れた取組を紹介します。ご覧いただき、各校の特別支援教育のさらなる充実につなげていただきたいと思います。

早期の合意形成で、家庭と学校の二人三脚

新潟市立横越小学校
中川 久幸

特別支援教育で目指す姿を「自分のよさを伸ばし、関わり合いながら学んでいく子」と設定しています。児童のよさや困り感、具体的な目標や支援方法を4月の「児童情報交換会」で教職員で共有しています。そして5月末までに個別の教育支援計画の作成を行っています。5月末からの保護者面談で、現状と当面の目標を共有して、合理的配慮について合意形成を行い、早い時期から学校と保護者の二人三脚で児童を支援できるように校内体制を整えています。

また保護者面談は、必要に応じて継続して行っています。児童の変容を確認し、次の目標や支援方法の修正をするための面談です。特別支援教育コーディネーターも積極的に同席して、ホワイトボードを使用し、話し合いの内容を可視化する工夫をしています。



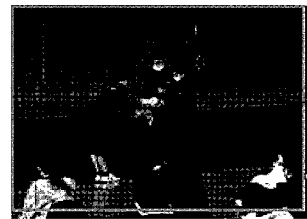
アリーナ体験で説明を聞いている様子

連携を大切にした特別支援学級経営

見附市立今町中学校
金澤 美紀

当校には、知的障害学級が1学級、自閉症・情緒障害学級が2学級、病弱・身体虚弱学級が1学級あります。学区は1小学校・1中学校のため、小中連携の取組が行いやすいという利点があります。アフターパンデミックの今年度、小中合同研修会等が対面で実施されるようになりました。特別支援教育部会においても児童生徒の情報交換や9か年をみすえた発達段階に応じた指導・支援の在り方などについて話し合うことができています。

また、特別支援学級在籍の生徒にとって、交流学級での授業、学校・学年行事への参加や、体験的な活動といった校外での連携は、学習面だけでなく、自律や自制、社会性の育成の面からも重要と考え、取り組んでいます。今年度は、校外学習として今年度開校した月ヶ岡特別支援学校高等部見附分校への見学を公共交通機関の利用や買い物などを含めて行いました。今後も小中、家庭、地域等との連携を大切にしていきたいと思えます。



手作りの玄関マットを生徒会に贈呈

生徒が自己決定する場面を増やし意欲を高める

新潟市立小針中学校
逸見 東子

当校は、知的障がい特別支援学級2学級、自閉症・情緒障がい学級3学級、病弱・身体虚弱学級1学級の6学級に計34名が在籍しています。すべての学級で、生徒一人一人が自分の持ち味を発揮できる環境整備に努めています。今年度は「自治力・自己決定力」があらゆる教育活動のキーワードです。そのために、教師が一方向的に指示することを減らし、生徒に判断を委ねる場面を増やすことを意識しています。例えば、特別支援学校高等部へ体験入学に行く際の事前学習の導入で、教師はどんな準備をしたらいいかを問いました。発表された内容を整理した後、最初に何をしたいかを生徒に決定するように促しました。生徒の決定を下に、実際に駅へ下見に行く活動を計画しました。自分たちで決めたことを実現できたことが成功体験となり、意欲を高めた様子でした。これからも、全職員で生徒個々の特性に応じた方法で自己決定を促し、意欲を高める活動を推進していきます。



駅で行程を調べる生徒の様子

第25回

教美展

開催



昨年度に引き続き、新潟県民会館ギャラリーAに於いて「第25回 教美展（新潟教育会美術展）」を10月3日（火）～9日（月）の期間で開催しました。

日本画、洋画、彫塑、工芸、書道、写真の6部門に109点の出品があり、会期中を通して約900名の方から鑑賞していただきました。また、25回という節目を迎えた教美展へのご功績が大きい故 渡辺 欣次先生、故 西村 満先生の遺作も展示させていただきました。お二人を偲んで思い出を語り合う方々も見られ、教美展を通して来場者が鑑賞と交流を深める場となりました。

出品いただいた皆様、来場いただいた皆様、ありがとうございました。



次回の「教美展」は、令和7年度に開催を予定しています。

令和5年度の事業を振り返って

○ 1月末現在で、214団体、2,681人の会館利用がありました。今年度末には、1階相談室の暗幕を遮光カーテンにリニューアルしました。予算を有効に活用して、利用者のニーズに合わせた環境整備に努めています。



○ 現職教員がすぐに実践に生かすことができるよう、児童生徒・保護者への対応という面から2つの講座の関連を図り、日程やもち方を工夫しました。「教師力アップ講座」には39人、「教育相談研修会」には27人と、前年度を上回る参加がありました。

お知らせ



8月2日、「ときわ11期の雄志の会」の皆様から、新潟教育会へ4万円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。

今年度は、周年事業を迎えた「すごろくの会」「大地の会」「一路の会」の皆様からもたくさんのご寄付をいただいています（令和6年1月末現在）。有効に活用させていただきます。

【あともぎ】

元日の能登半島地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く穏やかな日々が来ることを願っております。

今年度は、設立当初の志を受け継ぎつつ、2年サイクルで見直した事業を推進していく初年度でした。今年度の成果や課題を整理し、来年度の事業推進に活かしていきたいと思っております。